

氏名	吉田賢司
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 3539 号
学位授与の日付	平成20年3月25日
学位授与の要件	医歯学総合研究科生体制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目	Novel Percutaneous Catheter Thrombectomy in Acute Massive Pulmonary Embolism: Rotational Bidirectional Thrombectomy (ROBOT) (重症急性肺血栓塞栓症に対する新しい経皮的カテーテル血栓除去術: 双方向回転性血栓除去術(ROBOT))
--------	---

論文審査委員	教授 佐野俊二 教授 氏家良人 准教授 五藤恵次
--------	--------------------------

学位論文内容の要旨

重症急性肺血栓塞栓症に対する新しい経皮的カテーテル血栓除去術 (ROBOT) を考案し、その効果を検討した。対象は重症急性肺血栓塞栓症と診断された 18 症例で、血栓溶解療法のみ施行した血栓溶解療法群 (n=10) と ROBOT を施行した ROBOT 群 (n=8) の 2 群を比較した。重症急性肺血栓塞栓症と診断した時の血行動態は 2 群で差を認めなかった。血行動態の破綻による死亡は血栓溶解療法群で 3 症例認めたが、ROBOT 群では認めなかった。治療開始後 1 日目の収縮期肺動脈圧は血栓溶解療法群では 54 ± 5 から 42 ± 19 mmHg ($p=ns$)・ROBOT 群で 53 ± 8 mmHg から 30 ± 8 mmHg ($p<0.05$) と低下し、ROBOT 群のみで有意差を認めた。また入院期間は血栓溶解療法群で 27 ± 10 日・ROBOT 群で 17 ± 6 日と ROBOT 群の方が短かった。以上より重症急性肺血栓塞栓症に対して新しい経皮的カテーテル血栓除去術 (ROBOT) を施行することで、従来の治療法と比べ血行動態はより早期に改善し予後はより良好であることが示された。

論文審査結果の要旨

本研究は重症急性肺血栓塞栓症を発症すると、循環虚脱を伴う右心不全になり死亡の危険性がある治療法としては血栓溶解療法が標準的治療法であるが、薬物治療に抵抗性を示し、結果として死に至ることがある。

このような症例に対し、本研究者は経皮的カテーテル血栓除去術 (ROBOT) を考案した。ROBOT を施行することで、従来の治療法と比べ血行動態はより早期に改善し、予後はより良好であることを示した。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。